

うたうがいろ

鹿児島県の昔話と伝説

日本児童文学者協会／編



338 日本児童文学者協会

うたう がいこつ

県別ふるさとの民話 5 鹿児島県

偕成社 224p. 22cm 1978



(県別ふるさとの民話 5 鹿児島県)

うたう がいこつ

一九七八年 九月一刷

一九七八年十一月三刷

編者 日本児童文学者協会

発行者 今村廣

発行所 株式会社 偕成社

東京都新宿区市ヶ谷砂土原町三ー五

電話／〇三(二六〇)三二二一

振替／東京五ー一三五二

印刷 新興印刷製本株式会社

製本 文勇堂製本工業株式会社

乱丁本・落丁本はおとりかえいたしません。

ふるさとの民話 5 鹿児島県

うたうがいこう

日本児童文学者協会編

偕成社

●刊行のことは

いつの時代にも子どもたちは民話が大好きです。本ざらいな子も、民話の本ならば喜んで読むという話も聞きます。考えてみれば、それも当然のことかもしれません。

民話には、長い時間にみがきぬかれた簡潔平明な語りのおもしろさと、ふるさとの風と光、遠い祖先の知恵、夢と希望、喜びと悲しみ、笑いと涙が、さまざまにこめられているはずですから。それを読むものが、どんなに幼くても、同じ風土にそだったのならば、おのずからなる親しみをそこに感じだすのでしょう。

わたしたち児童文学にたずさわるものは、日本子どもたちに、この祖先の貴重な遺産を正しい形でつたえることを、なによりもたいせつなことだと考え、ここに日本児童文学者協会創立30周年記念出版として、県別『ふるさとの民話』（全47巻）を発行することにいたしました。

各県の代表的な民話のほか、これまで紹介されなかった民話、活字化されなかった民話をできるかぎりほりおこし、さらに明治以降の新しい民話もくわえて、従来にない、地方色豊かな民話シリーズをつくるべく努力したのです。

むろん、このような大事業は、わずかな人数だけでできるものではありません。地方在住の会員の協力と、各地の民話研究者、民俗学者の一方ならぬご援助をおおぎました。心よりお礼もうしあげます。

日本児童文学者協会

『ふるさとの民話』編集委員会



「たなばたのはじまり」より(本文59ページ)

此为试读, 需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

はじめに

棕鳩十

日本神話の若い神がみがかつやくした霧島山系も、海の中からいきなり千メートル以上の高さで大空にそびえ、一日に七色に山はだが変化するという桜島も、鹿児島山です。

鹿児島は海も山もうつくしく、太陽もまた、あかるい国です。

けれど、これらの山やまは、なん万年もまえからばくはつをつづけている活火山で、そのため、鹿児島島の土地のほとんどが火山灰地帯です。土地がひどくやせて、ふるい時代からまずしかつたのです。江戸時代末期の農民は、八割という高い税をとられました。よくも生きえたとおもわれるほどの税です。

しかし、この国の人びとは、こうした環境の中にあっても、けっして希望はすてませんでした。くるしみが、かなしみが、きつければきついほど、かなたにあかるい太陽をのぞみつつ、ここにあつめたような物語を生み、かたりついできたのです。

さあ、南方の人びとの愛してきた物語をよんでみてください。

うたうがいこつ 〓 もくじ

むかしむかしの
ふしぎな話^{はなし}

手^てなしむすめ 12

かりゆうどとおに 21

ヒトムスメとイジョー 27

クツカルとカラス 45

あじがなし 49



たなばたのはじまり 59

むかしむかしの
幸運ものがたり

灰太郎 67

分限者どんと貧なもん 79

塩買い大黒 85

キツネの恩がえし 90

えびすさまの石 95

手おのむすこ 100

むかしむかしの

おそろしい話

ひじんが御前 110

うたうがいこつ 119

鳥おいの森 126

俊寛の足ずり岩 130



むかしむかしの

ゆかいな話 はなし

ほんのすこし
むかしの話 はなし

白いニワトリのいない村 むら 136

ヨロンの勇者 ゆうしや 142

もちとでかん 153

うどどんの話 はなし 159

ぼっけもんの大蛇 だいじや たいじ 163

しいたれはぬすつと 169

侏儒 しゆじゆ どんの とんち話 ばなし 177

山伏 やんぷし どんの けち話 ばなし 185

西郷 さいごう どんと馬 うま 189

生きていた西郷 さいごう どん 193

ワニそうどう 198





《解説1》

いまも生きている民話.....「ふるさとの民話」編集委員会

204

《資料》

鹿児島県民話地図.....

208

《解説2》

鹿児島県の民話について.....有馬 英子

210



●編集委員

岩崎	京子	大石	真
久保	喬	木暮	正夫
柴野	民三	渋谷	清視
竹崎	有斐	鳥越	信
西本	鶏介	浜野	卓也
前川	康男	松谷	みよ子
椋	鳩十	(鹿児島県責任者)	



■装丁	———	司修
■さし絵	———	清水耕蔵
■絵地図	———	坂川知秋

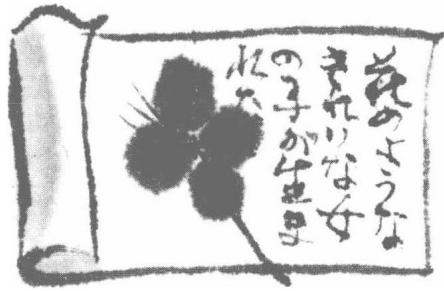
鹿児島県の昔話と伝説

うたうがいこつ

日本児童文学者協会編



むかしむかしの ふしぎな話^{はなし}



手^てなしむすめ

へむかし話^{はなし}

むかし。

おとうさんと、おかあさんと、むすめひとりとくらしておった。おかあさんが死^しんで、あとかかさん(後妻^{ごさい})をもろたとじゃが、あたらしいおかあさんは、むすめをきろうておったちゅうわい。

まもなく、おとうさんもなくなつて、むすめは、たよる人がいなくなつた。すると、あとかかさんは、むすめの両手^{りょうて}をきつて、家^{いえ}からおいだしてしもたそうじやな。

むすめは、しかたがないから、あっちの村、

こっちの村とあるいては、ものをもろうて、くらしとおったち。

あるとき、大きなかまへの分限者^{ぶんげんしや}どん(金^{かね}もち)のやしきに、いったちゆわい。

へいのそばに、大きなモモの木があつて、実^みがいっぱい、なつちよつた。

はらのすいていたむすめは、つい、へいにのつて、モモに食^くいついたとじやな。

それを、中から、分限者^{ぶんげんしや}どんのむすこが見ておつた。

「ここい(ここへ)きつみれ(きてみなさい)。」

と、むすめをやしきによびいれ、きいたそうじやな。

「いけんして(どうして)、手なしになつたとか。」

「こうこうして手をきられて、やしのうてくれる人もおらん。ものもらいをして、くらしちよる。」

と、こたえたち。むすめは、きりようよしだし、氣だてもよか。そのむすこの氣にいつてな。

「ここにおつてさえくれればよか。しごとは、せんでもよか。しごをすつとは(する人は、ずんばい(たくさん)おつたつて(いるんだから)。」

というてな、むすめは、そのよめさんになつたとじや。

そしたところが、そのむすこが、江戸^{えど}にいくことになつたちゆわい。むかしや、男^{おとこ}人は、三年、江戸づとめをせにやならんかつたちゆでな。

るすのあいだに、子どもが生まれたちゆわい。花のような、きれいな女おなご子じやった。

親おやもよろこんで、すぐ、江戸えどのむすこに手紙てがみをかけたそうじや。そうして、状じようもち（飛脚のこと）に
もたせてやったちゆわい。

江戸えどまではとおいので、とちゆうで、宿やどをかりにやららん。状じようもちがかりたところは、むすめの手
をきった、あとかかさんの家いえじやったち。状じようもちは、なんも知らんから、

「手のなか女おなごに、子が生まれたで、だんなに知らせをもつていくとこじや。」
と、はなしたとじや。あとかかさんは、

「あん（あの）むすめじやらせんかな（むすめじやなからうか）。」

とおもうたとじやな。夜中よなかに、状じようもちが寝ねてしもたあとに、そろいとおきて、手紙てがみをひらいてみたち。

「花のような、きれいな女おなご子じや生まれた。親おやも子も、げんきじや。あんしんせよ。」

とあった。そい（それ）を、あとかかさんが、かきかえたそうじや。

「どうにも見られた子じやなか。がいしめん（軽石）に、しゃもじをうつたつけた（うちつけた）ようで、
世間せけんにだせるような子じやなか。」

とな。江戸えどで、その手紙てがみを見た夫おつとは、

「そげな（そんな）子が生まれるわけはなか。じゃっどん（それでも）、これもいんねんじやろ。」



とおもうて、

「いけな（どんな）みにくか子じゃっても、おいがもどるまでは、だいじにそだててくれ。」

と、手紙にかいて、状もちにもたせてやったそうじゃ。

そしたら、また状もちが、あとかかさんの家にとまったちゆわい。あとかかさんは、また、夜中にひらいてみた。

「みにくか子でも、だいじにそだててくれ。」とあったで、

「いけな、きれいな子じゃっても、おまえは、その子をつれてでていけ。」

と、かきかえたそうじゃな。

状もちがもってかえったへんじを見て、よめさんは、家をでていかにやと心をきめた。親たちは、